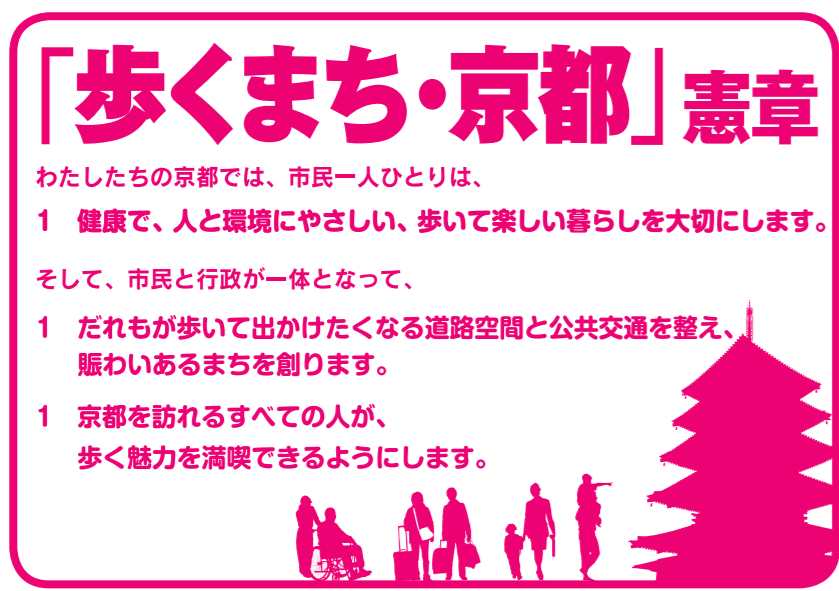


# 小学校における「歩くまち・京都」プロジェクト ～モビリティ・マネジメント教育の継続的・広域的展開に向けて～

矢内 克志・鷲見 俊之・瀧 明日香（京都市都市計画局歩くまち京都推進室） 岡本 英晃（公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団）  
水山 光春（京都教育大学） 東 徹（一般社団法人システム科学研究所）  
宮川 愛由・藤井 聡（京都大学大学院工学研究科）

## 「歩くまち・京都」憲章の制定



平成22年1月23日、市民・観光客の皆様、そして事業者、行政が一体となって「人が主役の魅力あるまちづくり」を進めるための事柄を明確にするために「歩くまち・京都」憲章を制定

## 「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定

憲章の理念を実現するために、3つの柱に基づく88の実施プロジェクトを掲げた「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定

非自動車分担率を現在の72%から80%以上に



## モビリティ・マネジメント教育

平成24年度に「学校MM検討会」を設置し、「モビリティ・マネジメント教育」の普及に向けて検討を開始。教員の提案に基づき「学校MM検討会」での議論を通じて発達段階に応じた指導方針・学習指導案・教材を作成。

### 低学年

バスとの親近感を育む

バスに関する知識やバスに対するおもしろさをクラスで共有することを通じて、バスに対する親近感を育む、すなわち、「バスと仲良くなる」ことを目指す。

### 中学年

自分の生活とクルマとの関わりを学ぶ

過度なクルマ利用による問題等を通して、自分とクルマとの関わりを多面的に考えさせる。加えて、行動変容の動機づけを行い、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。

### 高学年

社会とクルマとの関わりを学ぶ

社会とクルマとの関わりを考えさせることを通じて、より望ましい交通行動を自ら選択できる態度を育む。さらに、社会の問題は1人では解決できなくても、仕組みを変えていくことで解決できることに気づかせる。

## 平成27年度の取組

### 1 貸出用のガリバーマップ作成

過年度

モデル授業の教材作成を支援

平成27年度

・京都市の市街地地図を概ね六畳サイズに拡大した布製のガリバーマップ（試作品）を作成  
・平成28年度以降、授業での使用を希望する学校を募集し、貸し出す予定

### 2 教員による研究会との連携

京都市では、学校教員は何らかの研究会に所属している。このうち社会科研究会との連携を図り、2名の教員の推薦を受け、京都市学校MM検討会に参画いただき、モデル授業にも取り組んでいただいた。

### 3 モデル授業の実施

過年度

・モデル授業は、当日1時間のみの授業であった  
・モデル授業は、総合学習の授業であった

平成27年度

・いずれも一単元（7時間）を活用した授業の中に位置づけて実施いただいた  
・そのため、授業前後での児童の意識変容が観察できる事例となった  
・初めて社会科の授業の中に「歩くまち・京都」を取り入れられた



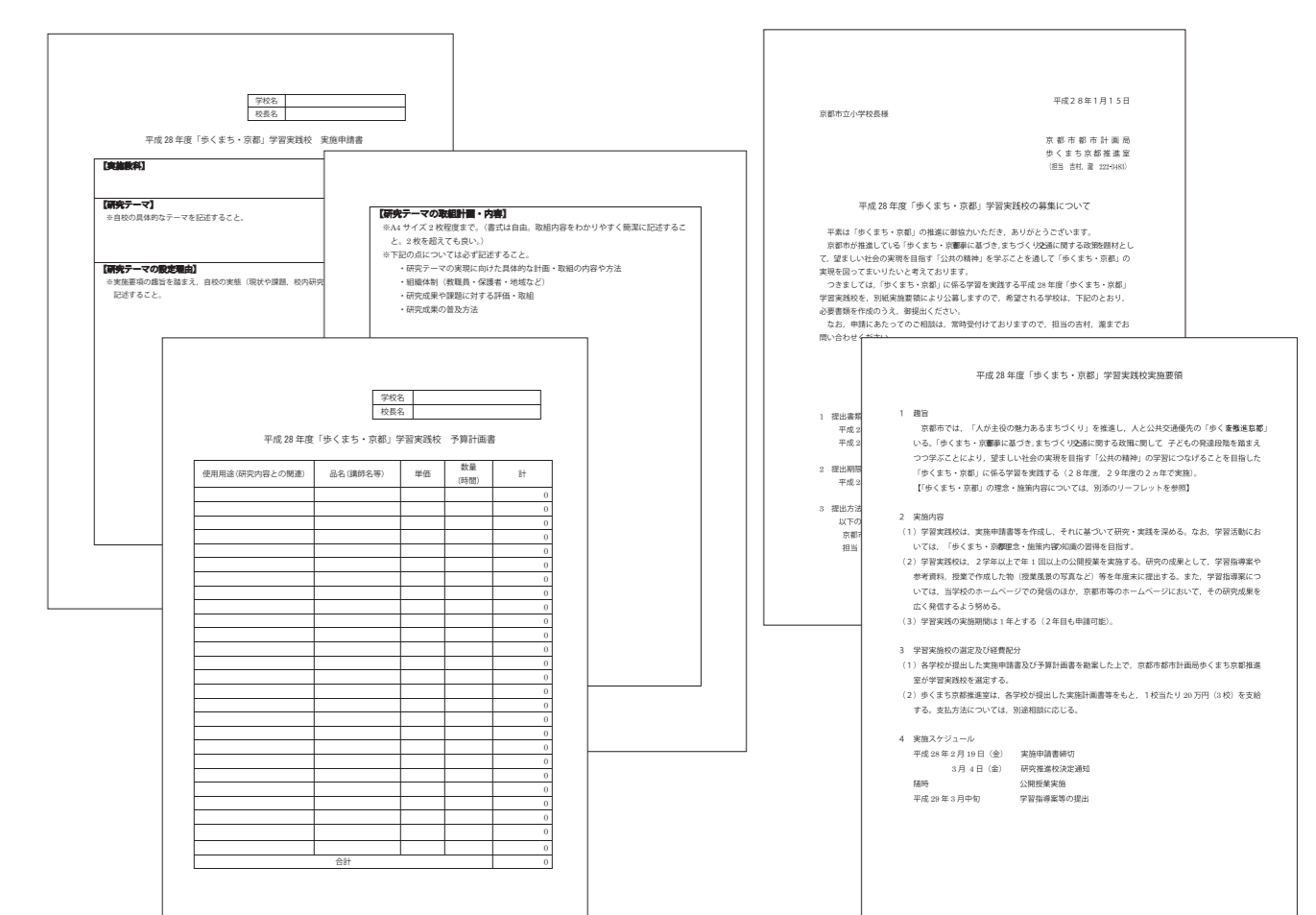
### 4 「歩くまち・京都」学習実践校の募集・選定

過年度

検討会メンバーの教員個人の尽力に依存する部分が大きかった

平成27年度

・教育委員会と連携し、小学校長会において「歩くまち・京都」学習実践校を募集し、3校を選定  
・来年度からは、学校としての取組の効果を期待することができる



## 成果と展望

京都市のモビリティ・マネジメント教育の取組は、平成24年度から職場の教員の創意工夫を、学校MM検討会において体系化する方向で推進してきた。

今後は学校として、シチズンシップ教育としてのMM教育に取り組むパートナーを獲得して、継続体制を構築する予定である。